

## モニタリング調査結果

種名： ヒメニラ

調査者： NPO法人境川の斜面緑地を守る会

調査地： 上鶴間

調査期間	気づいたこと
2018年1月 ～2018年4月	調査対象エリアで48個の開花を確認した。1本の茎に3個の花を付けた株もあった。試験的にスゲを抜いた場所で多数のヒメニラの葉を確認した。また落葉が厚い場所では発芽が遅れ開花できないようだ。親鱗茎からストロンで養分を移動させながら娘鱗茎を作って葉や花を展開し、来年の鱗茎を残すことが分かった。
2019年1月 ～2019年4月	調査対象エリアで21個の開花を確認したが、昨年に比べて半減した。通常なら花を付ける2枚葉でも花を付けていないものが多かった。1株だけ1本の花茎に2個の花を付けていたが、雄蕊は無く雌性花だった。
2020年1月 ～2020年4月	調査対象エリアで35個の開花を確認し、昨年に比べ開花数は若干多い。1本の花茎に2個の花を付けた個体にも雄蕊はなく雌性花だった。全体的にアズマイチゲ、ニリンソウ、イチリンソウの群生に圧迫されている。その隙間でヒメニラの葉が確認されるような場所では、競合するハナウド、ノビルなどを除去した。
2021年1月 ～2021年4月	調査対象エリアで14個の開花確認。昨年に比べ開花数は半数以下。2個の花を付けた個体も雌性花で雄蕊は見られない。昨年ハナウド・ノビルを除去した場所はヒメウズに占拠され逆効果だった。アブラチャンの木陰など他の春植物が少なめな場所にヒメニラの葉が多く見られる。
2022年1月 ～2022年4月	調査対象エリアで20個（昨年14個）の開花を確認。今年は葉の数もカウントしたが優に1200枚を越えていた。今年もすべて雌性花で雄蕊は見られない。モニタリングを開始した当初と葉の多い場所、開花する場所が大きく変わっている。勢力の強い春植物から逃れ隙間を見つけて生育していることが分かった。
2023年1月 ～2023年4月	②の全エリアで昨年と同数の14個の開花を確認した。一枚葉で生育している個体は、数ヶ所に十分な数まとまっている。冬から開花まで期間の生育範囲の観察を継続する。
2024年1月 ～2024年4月	②の全エリアで5個の開花を確認した。一枚葉の個体は数カ所に分散しているが全体の密度は下がり気味。林床の他の植物を含めた状態に大きな変化はない。継続して観察する。
2025年1月 ～2025年4月	②の全エリアで3個の開花を確認した(5→3)。昨年と同様に一枚葉の個体は数カ所に分散し、密度は昨年と同程度。林床の他の植物を含めた状態に大きな変化はない。継続して観察する。